

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201086		
法人名	NPO法人 ライフサポート永楽台		
事業所名	グループホーム そよ風SUN		
所在地	千葉県柏市永楽台3-4-2		
自己評価作成日	平成29年3月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成29年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>民家改築型家族的24時間オープングループホーム</p>
--------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム そよ風SUN」は民家改修型施設となっており、民家特有の温かみを活かした造りとなっている。外観だけでなく、食事・接遇等の日々の関わりの中で家庭的で温かみあるサービスを提供しており、入居者に安らぎの場となっている。職員・運営者に地域住民が多数おり、施設と地域の馴染み関係を活かしながら、地域行事への参加・非常災害時の連携・ボランティア来訪時の招待・近隣住民からの相談受付等、様々な形で地域との交流が行われており、入居者の生活活性化に繋がっている。他にも、柏市グループホーム連絡会のイベントに参加しており、入居者・職員のストレス発散や刺激の機会となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は機会がある事に話をしながら共有する様にし、実践する様にしております	「家庭的な環境」「安心と尊厳を守り、快適な共同生活」「健康な暮らし」を主眼とした施設独自の理念を掲げている。事業所内に掲示すると共に、職員会議や運営推進会議の資料に掲載し、職員・地域住民等に周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、町内の行事には積極的に参加する様にしております	施設関係者に地域の人達が多く、散歩・外出時に近隣住民と気軽に挨拶を交わす関係が築かれている。町内会に加入しており、地域行事への参加やボランティア来訪時の近隣住民への声掛け等、地域との交流を積極的に行っている。また、近隣住民の相談に応じると共に、大学生による研究課題のための施設見学の受け入れ等、世代間交流や地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会に加入し、行事に参加しながら活かす様にしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行いながら情報を提供し、意見を聞く様にしております	地域包括支援センター職員・民生委員・町会長・副会長・家族・施設職員等を構成員として、運営推進会議を開催している。会議では活動報告等を行い、理解促進に努めると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。その他にも、地震対策等を議題に挙げ、地域との災害時の協力体制強化に活用している。	今年度は、1回の運営推進会議の開催でしたが、今後は、市の定めた回数を定例開催する事により、更なる施設の理解促進及び地域との連携強化に取り組んで頂くことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各施設は直接市役所へ、全体的なことはグループホーム連絡会を作り、市役所と連携出来る様にしております	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行っており、連携を図っている。柏市グループホーム連絡会に参加しており、会議を通じて、意見・情報交換を行っており、市と連携体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	最近柏も物騒に成りつつありますので、夕方になりますと玄関は施錠する様にしておりますが、窓その他は開けたままにし、拘束をしないようにしております	身体拘束排除におけるマニュアルを整備し、職員へ意義を周知している。玄関・ベランダの施錠はせずに、入居者の自由な生活を支援している。また、必要に応じて、センサーやチャイム等を活用する等、安全確保を心掛けながら適切な支援が行えるよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や休憩の時にお互い話をしながら防止するように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まず人間一人一人の人権がどうあるべきかを考え、介護されている人が安心して、自立できるのか、その為にどう後見人制度を生かしていくのか等と話し合っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される時に十分説明し、理解し、納得が得られるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問された時に入居者の近況をお知らせする時等にいろいろな話をしながら意見などを聞いて反映させるようにしております	家族の面会時・電話連絡時に直接意見を確認すると共に、運営推進会議にて質疑応答を行っており、様々な意見・要望の確認に努めている。また、契約を終了した家族からも意見をもらう等、多種多様な意見・要望を施設サービスの改善に活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	時々仕事の終わった後に雑談や話し合いをしながら意見や提案を聞きながら運営に反映する様にしております	定期的に会議を開催しており、職員からの意見・提案等を確認している。また、柏市グループホーム連絡会の研修等に参加し、職員のスキルアップを図っている。その他にも、申し送りノートや日々の雑談の機会を活用し、職員間の情報共有・意見や提案の確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雑誌を見たりしながら自分で行ってみたい研修等を探して参加し、知識・力量を付けてもらうようにしております		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡会を作り交流・研修会を開催し質の向上を図るようにしております		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居者が早く安心した信頼関係を築けるように担当者を決めて対応するようにしております		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に問診を通していろいろと聞いておりますのでそれを生かしながら信頼関係を築く様にしております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にいろいろな話の中で聞いている困っている事・不安な事等を協力を得ながら解決出来る様にしております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なぜ施設に入居することにしたのかを聞き、それらを考慮した対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者も参加してもらい、料理・掃除・洗濯等を行うことによって生活を共にする関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の今までの生活についていろいろと聞いておりますので、今までの生活が出来る様に家族と相談・協力して支えていくようにしております		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらに慣れてもらう為に出かけるよりもこちらに来てもらう様にして、車でその方の家まで一緒に迎えに行き遊びに来てもらう様にしております	入居者の馴染みの人の面会や訪問を随時受け付けており、馴染み関係の継続に努めている。また、家族との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続も支援している。その他にも、他のグループホームとの行き来を通じて、継続的な交流や新たな出会いの機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で一緒に何かをやり、終わったからお茶を飲みながら話しをしたりしながら仲間意識を持ってもらう様にしております		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	遊びに行ったり、来てもらったり行事を通して関係が続く様にしております		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面接・問診の時に希望・意向等を聞いておりますので、どう生かしていくかは安心して、生活していただけるようになったらケアプランに反映していく	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、必要に応じて医師の意見書等をもらい、より詳しい情報の把握に努めている。定期的に記録を更新し、新しい情報を全職員へ周知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接時に問診としていろいろと聞いた事を書面にして保存しております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の起床時の状態、血圧、体温等を見ながらひとりひとりの一日の過ごし方を考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	いろいろと聞いた入居時の生活ををなるべく取り入れて行く様にケアプランを作成し、モニタリングし、次回に生かして行く様にしている	本人・家族の意向を確認すると共に、看護師・医師と密に情報交換を行いながら、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認・評価を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。職員間での意見・情報交換は都度行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の新たに気が付いた点を記録出来る様にし、ケアプランに生かして行く様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者がここでの生活を楽しみ、安心して生活をしていただくために時々のいろいろなニーズに答えられる様に情報を取り入れ、実践出来るようにしております		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事などに参加しながら楽しく暮らせるようにしております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一週間に一回かかりつけ医に訪問医療を受けられるようにしております	希望の掛かりつけ医への受診及び内科医による往診を行っており、適切な医療受診を支援している。また、必要に応じて職員が通院の付き添いを行い、医師・家族等と情報連携を図っている。緊急時には、協力病院と連携し、適切な医療支援が行える体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に二回看護師の訪問によって入居者の健康をチェックする様にしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医、看護師などの紹介によって医療関係者との関係を作り連携しやすいようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	安心したターミナルケアが出来る様にその都度、家族と相談しながらかかりつけ医、訪問医師、訪問看護師と連携を図りながら取り組んでいる	終末期・重度化における方針についての説明や意向確認書を交わす等、了承を得ている。重度化した場合には、家族・医師・看護師と話し合いを行いながら、意向に沿った支援ができるよう体制を整えている。また、必要に応じて、医療機関や他サービスへの切り替えが生じた場合、円滑に移行できるよう協力体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年二回訓練をして、実践力を付けられるようにしておりますが		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を消防署団員立会いの下、又近隣にも声をかけながらやっておりますが	施設内はオール電化となっており、火災の予防に配慮した造りとなっている。また、火災報知機・自動通報器等の設備が設置され、火災対策がなされている。運営推進会議時に、災害時の地域との話し合いを行っており、非常時・緊急時の協力体制を構築している。	今年度は、消防設備の設置工事により、避難訓練は1回の実施となっている。災害時における確実な避難の習得に向け、早急に避難訓練を実施し、非常災害時における施設内の連携をより強化して頂く事を望みます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者がこれまでの生活を通して磨いてきた品性を尊重し、傷つけない様な介護をする様にしております	施設は、民家改修型となっており、スペース・設備は限られているが、ロールカーテンや仕切りを活用し、個々のプライバシーが確保できるよう工夫している。また、接遇においては、言葉使い・声掛け方法を工夫し、入居者の尊厳に配慮した対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人の意向に沿う様な生活が出来る様にしております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の今までの生活のリズムを取り戻し、生活出来るように支援する介護を心掛けております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に持ってきました物の中が本人の好み、意向に沿う様にしております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを聞いて、買い物に行ったり、作ったりしながら食事を楽しめる様にし、終わったいっしょに話しながら洗い、拭いてもらう様にしております	入居者の希望や能力に応じて、準備・調理・片付け等を共同で行っている。入居者の希望に応じて献立作成・食材の買出し等を行っており、好み・季節感に配慮した食事提供がなされている。季節に応じた食事会の実施・松花堂弁当の活用・手作りおやつの実施・行事の特別食の提供等、様々な手法で入居者に食に対する楽しさを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分、運動不足、便秘が認知症の症状の出る原因と言われておりますので不足にならない様に、食事による便秘解決を心掛けております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、おやつ後、就寝前等自分で出来る様に洗面所に誘導しながら口腔ケアをしております		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを見て、トイレへ誘導したり、交換したりしております オムツ外し学会があるようですのでそこへ入会して、オムツが外せるようになればと・・・	排泄チェックリストを活用しながら、個々の排泄パターンを把握しており、排泄の自立に向けた排泄支援が行われている。必要に応じて、受診記録を基に関係機関と相談し、適切な排泄コントロールが行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今流行っております麹菌を毎日食事を作る時にいろいろなものに入れながら薬を使わずに出来る様に取り組んでおります		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応は週二回と決めておりますがその他自由にいつでも入れる様にしております	入浴日を定めているが、入居者の希望や状況に応じて、回数・時間等、柔軟に支援している。また、必要に応じて部分浴・シャワー浴・清拭等を実施し、入居者の清潔保持に努めている。脱衣所のロールカーテンを活用し、プライバシーに配慮すると共に、直接トイレに行ける等、利便性にも配慮した工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	総てを自由にしてはおりますが、その人の今までの生活のリズムに合わせる様にしております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬には特に注意を払っております 誤って他の人のを飲ませない様に、又入院時には薬の見直しもする様にしております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の日常の中で役割、楽しみを見つけ、それが出来るように支援しております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の外出の中に一日と十五日は神社詣りと食事会と決め、従業員、家族等の情報を参考に出かける所を決めております	天候や希望に応じて、散歩や買い物等の外出を支援している。また、自由にベランダや駐車場に出る事が可能となっており、近隣住民との交流の場となっている。その他にも、グループホーム連絡会や地域の行事に参加し、入居者の生活活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物するときには自分の者は自分で払う様にしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月の年賀状、又時々家族に電話をしてもらう様に言って、話をしてもらい、終わった後は家族の話で盛り上がる様にしております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に何処へでも行けるようにしてあり、その時々のお花を植えながらのんびりとおだやかに生活が出来る様に工夫しております	施設は民家改修型となっており、入居者にとって馴染み深い造りとなっている。共有スペースには、テーブル・ソファ・和室スペースが設置されており、入居者が思い思いにくつろげるよう配慮している。また、随所にパネルヒーターが設置されており、室内の気温が適切に保たれている。その他にも、カラオケ設備・ベランダ・駐車場の活用により、入居者の生活の活性化にも配慮した環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が話したり、時には一人になれる様に見守りながら工夫しております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の中で使用していた物を持ってきてもらい、今までと変わらない居心地の良い空間にする様にしております	希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、畳や布団を使用する事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りに努めている。センサー等を活用し入居者の安全に配慮すると共に、各居室にエアコン・パネルヒーターを設置しており、適切な空調管理が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に気を付けて、自由に動き回れる生活が出来様にしております		